

2020JSCA パドルスポーツセーフティミーティング IN 西表島修了報告書

提出日：2020年4月18日

開催地：西表島 白浜港周辺

報告者：BLUE HOLIC 嘉藤 暖博

GOOD OUT DOOR 出戸 津雲

パート1 指導方法と応用技術

開催日：4月8日 参加人数：4名

講習内容：指導論、陸上指導、水上指導、ターン・ラダー、応用技術



所感：参加者全員 JSCA アドバンスインストラクター所持者であったので技術レベルが同等で講習しやすかった。普段はツアーガイドの仕事が多いのでインストラクションは苦手な様子だったが、指導の順番と短い言葉で指導することを心掛けて繰り返し練習する事で理解が深まった。

午後からはサーフゾーンで波を使ったカヤックの動かし方やサイドサーフィン、波に乗る方法乗らない方法の講習を行った。

講習終了後のアンケートでは全員がサーフィン講習が興味深いと答えた。

パート2 リスクマネジメントとレスキュー

開催日：4月10日 14日 参加人数：10日3名 14日2名

講習内容：リスクマネジメント、セルフレスキュー、グループレスキュー、カヤック牽引、ロープワーク





所感：リスクマネジメントの考えが少しずれている部分があったのでプロアクティブとリアクティブ両方の必要性と重要性を伝えた。

セルフレスキューは順序を陸上で手順の確認をしてから水上講習を行った。

グループレスキューはレスキューに入る前の状況確認、セルフレスキュー、チームレスキューが重要なことを説明し、様々なシチュエーションのレスキュー講習を行った。

ロープワークはロープの種類と性質の話から始め、パドリングシーンで使う結びとその使用方法について講習をした。

参加者は普段やらないレスキュー方法や牽引方法をやれたのが嬉しかったと話していた。

パート3 模擬ツアー

開催日：4月16日 参加人数：2名

講習内容：ツアー計画書作成、ツアー計画発表、読図、模擬ツアー、アクシデントシナリオ、フィードバック



所感：参加者は自らツアー計画を企画したことがないということで、ツアー計画の立て方を説明し、計画書を作成してもらい発表してもらった。

発表後、質疑応答をしてから計画したツアーを実際に開始した。ツアー中は休憩ごとに読図で現在地確認をし、タイムチェック、風向風速をチェックして予想、予報とどう違うかを考察した。

参加者はガイド経験2年未満と経験が浅いため、ツアー中に参加者をコントロール、フィールド観察が不十分だと感じフィードバックを繰り返しながらツアーを進めた。

アクシデントシナリオは怪我人を用意して応急手当のトレーニングを行った。血のりを使ったので「血を見ると一瞬何をしようか解らなくなっていました。」とコメントしていた。

ガイドとして何が足りていないかが浮き彫りになって何をトレーニングするかが明確になったと講習後に語っていた。

三回の講習でJSCA会員以外の参加者は1名のみだったのは残念であるが、コロナウィルス騒動の中無事開催できたのは喜ばしいことだと思う。

主幹による所感：地域に占めるカヤックガイドの人口密度が日本一と思われる西表島での開催。

残念ながら JSCA の存在感は薄いです。

近澤氏、出戸と二人の公認スクール代表者がいても、この十年あえて JSCA に関わらないできたお店が多い中、そういったお店のオーナークラスには期待せず、若手のガイドを対象に、彼らが参加しやすいよう講習料金も格段に安くして募集を進めてきました。

ガイドたちのレベルアップや普通のお店では経験できないような講習内容を嘉藤氏が組んでくれましたが、結局沢山いる若手ガイドたちの関心をひくものではなかったようで、とても残念です。

西表島のシーカヤックガイドはある一定数以上の確率で、技術より実践。ツーリングでこそ得られるものが多いと思っている傾向があります。

やはりちゅらねしあの八幡氏を代表とする冒険者に憧れている節も感じられます。

たしかに冒険や実践的ツーリングもいいですが、ただ漫然とそれをこなしていても上達のスピードは速くはないわけで、きちんとテーマをもったの実証的ツーリングこそが有益なのだと思います。

若者の中に技術を軽んじる傾向があるのは残念です。

ガイドはガイドであって冒険者でもツーリングの同行者でもない。

ツアーの現場で責任を負い、無事にツアーを遂行する能力をこそ一番に身に着けるべきで、ロングツーリングや冒険的ツーリング能力はその後でいい、ということを今後は広く知らせていくべきです。

その意味で今回の3つのテーマをもったツーリングですが、すべて若手ガイドが興味を持つツーリングという形式の中に組み込んでできればよかったのかと考えています。

グッドアウトドア

出戸 津雲